

宮崎日日新聞 連載記事

<http://www.the-miyanichi.co.jp/contents/index.php?itemid=14734&catid=323>

変わる自治会【09.1.26-09.2.23】(報道部・堀口佳菜子)

『問われる必要性』5…会費

■飲み食い「許さない」

1月17日 自治会役員会(夕食いらず)。

宮崎市のある自治会副会長(78)は、自宅のカレンダーに週の予定を書き込んだ。夕飯が不要なのは公民館で役員会を済ませた後、近くの居酒屋へ繰り出すから。「議論は熱く。飲みにも行こう」が新会長(70)の方針だ。

実際、酒が入ると口が滑らかになる。つい先日も、参加者から「副会長は言い過ぎ」とたしなめられた。普段なら角が立つかもしれない一言。けれど酒席では、頭をかき、笑って応じることができた。回を重ねるたびに、互いの心が近づくのを感じている。

□ □

毎回2、3千円の出費は楽ではない。それでも、集まる機会が増えたのは、「役員の仕事も飲み会も、好きでやっているから」。会議後の打ち上げも活動の一つという考え方もあるが、会費で賄うのは年2回に抑えている。

会費は、会員から集めた大切なお金。うちの地区は月額250円だが、800円のところもあると聞く。いずれにしても、会費を飲み食いに使うのは許せない。

しかし、その「許せない」ことのために、加盟する自治会連合会の会費が上げられそうになったことがある。

昨年冬。全38自治会が支払う一律5千円の月会費を、「一世帯当たり100円にしたい」との提案があった。六世帯でも700世帯でも5千円だった会費が、600円と7万円に変わる、ということだ。

「世帯数の少ない自治会の負担が大きい」というのが、提案の理由だった。確かに、一理ある。だが、この方式で試算すると、全体で30万円以上もの増額。連合会にその使い道を尋ねると「研修費と忘年会費に充てる」との答えが返ってきた。

研修と忘年会―。実質は、小旅行と飲み食いに近い。長年、役員をしているからよく分かる。納得できず、さらに調べた。

□ □

連合会の年間予算は約240万円。そのうち140万円は「繰越金」だった。余剰金がこんなにも多いとは。残る約100万円も、夏季研修(約50万円)と忘年会(約15万円)が半分以上を占めていた。

「何かをやるための値上げなら理解できる。しかし、繰越金が100万円以上もある上、飲み食いに使うのなら(提案を)持ち帰ることはできない」

会長とともに異議を唱えた。結局、2回にわたって提案されたが、いずれも否決。値上げは阻止することができた。

30年以上、だてに地域活動を続けてきたわけではない。今回は、会長と副会長の自分が気付いたから良かった。もし、関心や知識のない人が役員だったら。想像するだけでも、ぞっとする。

(2009年1月31日付)